



書評

[評者]

尾藤 誠司

東京医療センター総合内科

カンボジア医療の 歴史、現在、そして未来

世界で役に立ちたいあなたへ

岩田 健太郎, 林 祥史 著

●A5 頁198 2022年9月

定価: 2,420 円 (2,200 円+税 10%)

[ISBN978-48157-3057-4] MEDSi 刊



◆大人であることの要件

ヘルスケアというサービス産業に従事している人は幸せだと思います。その職種で仕事をしているだけで、なんとなく人の役に立っているような気分を味わえるからです。嫌味ではなく、実際に役に立っていると思います。一方で、そのような立場を得ることは弱みでもあります。「ありがとうございます」と言われる立場の日常によって、「はたして、自分は本当に世界の役に立っているのか?」「世界は、もっと善くなってよいのではないか?」という問いを立てにくくなるからです。

本書は2部に分かれていて、前半はメインタイトルの通り、カンボジア医療の過去から現在までの状況、さらにはカンボジアという国やそこに住む人々が経験した歴史と医療との関係について多くの資料とともに紹介されています。このテキストが一般的なカンボジア医療の現状紹介と異なっているのは、おそらくイワタ先生のなかに「自分はなぜカンボジアに惹かれ、カンボジアを訪れ続けるのか?」という問いがあり、その問いに答えるために書かれたテキストだからでしょう。特に、カンボジアの社会と人々が経験した歴史について、自らに言い聞かせるようにイワタ先生の文章が進んでいるのが印象的です。

後半は、長年カンボジアの病院で病院長として勤務されていた林祥史先生との対談です。本書には「世界で役に立ちたいあなたへ」という副題がつけられていますが、本対談の内容はまさに世界に役立つ仕事をした

いと考えるヘルスケア従事者や学生に対するメッセージとなっています。

世界がもっと幸せであるために、自分の人生を世界とコミットさせることに意義を感じる人は少なくありません。その手段として、研究開発にたずさわったり、海外で支援活動をしったりする人もいます。それらも素敵な方法ですが、自分なりの世界とのコミットメントの仕方を発見できることが大切なのだと思います。そのために必要なことは「もっと世界は美しいはずなのに、どうして現状はそうでないのだ」という問いが立っていること、さらには、その現状を変えたいという欲求に誠実に考え、行動することなのだと思います。

RCサクセッションの忌野清志郎さんが言っていた「大人は楽しい。自分の人生を何に使うか自分で決めることができる」というメッセージを大切に生きています。子供は今の世界をクソだと感じ、そんなクソな世界を変えてみたいと願います。でも、世界は変わりません。だから、自分の人生を世界にコミットさせることを諦めることが、すなわち大人になることだというイメージが一般的にはあります。そうではないと思います。自分なりの努力と適性のなかで現実的に世界とコミットし続けられる存在になることが、大人であるための要件なのだと思います。本書は、そんなことを私に再確認させてくれました。

あ、あと、表紙のイラストの「若者たち」のなかに、イワタさんもまじっていたのも印象的でした。